

## 野生生物の知見全国大会における発表要旨

セッション1： 発表者名は伏せてあります。

	観察対象生物	観察状況
発表1	ヒメギフチョウ	1987年から群馬県渋川市、赤城山周辺で観察している。天然記念物であるため、成虫数の調査ができない。生息地域内での産卵数(卵塊数)の総数を数えることで発生数を予測している。その後、幼虫数を連続して調査し、生育状況の確認も行っている。
発表2	ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン	1993～98年3月には八王子市高尾山麓、1998～2006年には千代田区北の丸公園他で観察している。定点観察：千代田区北の丸公園で、四季それぞれの時期に出現する昆虫たち、中でもナガサキアゲハ・ムラサキツバメ・ツマグロヒョウモンなど、最近進出してきた南方系の蝶について、採集・写真撮影、観察記録してきた。
発表3	ゲンジボタル、ヘイケボタル	1991年から青森県上北郡横浜町(吹越地区)で観察している。ゲンジボタルの初見日(一番ボタル)、終見日、産卵ふ化状況を中心に、花の初咲きと合わせて観察している。
発表4	遊水地の昆虫(特にトンボ類)、クモ類、淡水魚類、水生昆虫、両棲・爬虫類など植物以外の小動物全般	1995年頃から青森市の里山中心にピオトープ、遊水池などで観察している。ピオトープや近郊里山地帯で目視される昆虫などを接写画像で記録し、同定の難しいもの(ヤゴなど)については捕獲、照会、情報検索、あるいは飼育によって種名の確定を行っている。
発表5	ササラダニ亜目、土壌原生生物	1998年から仙台市青葉山をはじめ全国で観察している。ササラダニ亜目については、ツルグレン装置を用いた抽出を経て顕微鏡観察を行っている。土壌原生生物についてはMPN法などによる個体数推定と同定(顕微鏡観察)を行っている。
発表6	マシジミ、タイワンシジミ、カワヒバリガイ、ニホンミズシタダミ	1999年から相模川・桂川全流域及び富士五湖(神奈川県・山梨県)で観察している。神奈川県伊勢原市の農業用排水路で、外来種タイワンシジミの生息を確認して以来、在来種マシジミの生息と外来種タイワンシジミの分布拡大状況を確認するために、相模川・桂川全流域及び富士五湖において継続的に調査を実施している。
発表7	改修された都市近郊河川に生息する水生動物(ヨシノボリ)	1996年3月から茨城県つくば市の花室川河口より上流10km地点の100m区間で、改修された都市近郊河川に生息する水生動物を観察している。毎月1回、午後4時から約1時間4人が胴長をはいて巾60cm、網目3mmの手網で下流より上流に向かって生物を採取している。
発表8	ニホンアカガエル、ドジョウ	1998年から愛知県一宮市東五城、大和町福森、籠屋、田園周辺で観察している。トノサマガエルのアルビノ種、ドジョウのアルビノ種を捕獲して飼育観察している。

セッション 2 :

	観察対象生物	観察状況
発表 9	モリアオガエル、アカガエル 2 種	1966 年から群馬県みなかみ町大峰山古で、モリアオガエルの卵塊数を約 1 週間ごとに数えて観察している。また 1976～1994 年に栃木県足利市大沼田町の谷津田でアカガエル 2 種についても同様の観察を行なった。
発表 10	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシッピアカミミガメ、その他外来種の淡水性カメ類	2003 年から大阪府茨木市・摂津市を貫流する大正川の中流～下流、その支流（三条川・境川・防領川）と安威川の一部で観察している。1 年を通して、手探り（一部トラップ）によるカメの捕獲を行い、在来種についてはマイクロチップ又は縁甲板穴開けによる個体識別を行っている。外来種は排除し、川に棲息するカメの種類やその年齢（甲長）がどのような変化を見せるかを観察している。また 1 年でどのような移動をするかなどもあわせて調査している。
発表 11	ウミネコ	1965 年から青森県八戸市蕪島で観察している。繁殖地蕪島のヒナの生産を知るために 10m × 10m の面積の調査をする。また、巣密度、一巣当たりの卵数、孵化率、巣立ち率を「数える」ことで明らかにする。ヒナに金属リングを 2000 羽につけて標識放鳥している。全国の海岸で回収され、非繁殖の移動経路が推察される。何年かすると標識鳥が戻ってきて、年齢が分かる。
発表 12	鳥類 （特にワシタカ類、コハクチョウ、マガン、オオヒシクイ）	1995 年頃から山形県鶴岡市大山高館山周辺で観察している。フィールドを歩きながら、双眼鏡で出現と鳴き声を確認記録する。繁殖も同様にして観察している。
発表 13	ツバメ	2001 年から千葉県茂原市の小学校・学区内で観察している。毎年、学区内にある全家庭を対象に、巣の有無・巣の様子・子育てや巣立ちの様子・地域の方々のツバメに対する思いなどを、全校児童が一軒一軒聞き歩き調査を行っている

セッション3：

	観察対象生物	観察状況
発表 14	ニホンザル	1960 年頃から（現体制になったのは 1987 年）青森県下北半島で観察している。毎年夏季（8 月上旬）と冬季（12 月下旬）に、下北半島南西域を中心に生態調査を実施、3 月に調査を補完すべき補足調査を実施している。個体数・群れ数・群れの構成・生息域・食性等の動態変化を継続的に調査している。
発表 15	ニホンザル	1962 年から断続的に、1982 年からは継続的に、宮城県石巻市鮎川の金華山島で観察している。毎年 2 回の精密なセンサスを実施し、個体数の年変動を調査している。毎年アカンボウの出生数、アカンボウの 1 年以内の死亡数とその原因を調査している。また、6 群のうち 2 群について全頭を個体識別し、家系図を作成している。食物リストも作成している。
発表 16	ニホンジカ	1989 年から宮城県石巻市鮎川の金華山島で観察している。金華山島西部の黄金山神社周辺に、1989 年に生息していた 150 頭のシカを個体識別し、現在まで約 500 頭を追跡している。1990 年に群れの全頭識別を行い、その個体の生涯の繁殖成功や成長、死亡とその要因、行動を調べている。DNA 分析も行なっている。
発表 17	ニホンツキノワグマ	1995 年から長野県下全域で観察している。捕獲個体のテレメトリー追跡、「駆除」個体等からの資料採取と分析、生息環境調査を行なっている。
発表 18	里山の哺乳類 （ツシマヤマネコ、 ニホンカモシカを含む） ニホンジカ、 ニホンザル	1981 年頃より対馬などの離島を含む九州各地で、1984 年より五島列島野崎島で、1998 年より大分市高崎山自然動物園で観察している。ツシマヤマネコの南限分布調査、大分県のニホンカモシカ生息調査、及び各地でフィールドトラッキング法により、哺乳類の分布を調べている。サルは高崎山寄せ場に出現する個体を、写真・映像で記録している。また、幸島・下北・地獄谷などへも出かけ、行動・文化の違いを観察している。野崎島は、島独特のシカの生態・島民及び天敵のイヌとの関係を写真と映像で観察している。無人島となった現在は、個体数の推移を区画法と糞粒法で観察している。